

1. 研究課題名

非意図的な随伴侵入生物の生態リスク評価と対策に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属

五箇 公一（(独)国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成 20～22 年度

4. 研究の趣旨・概要

外来生物法では、規制対象種は「目視で種の判別が可能な種」に限定されており、輸入資材に随伴して侵入してくる微小な生物の影響対策が遅れている。天然資源の輸入大国である我が国では、カエルツボカビのような未知なる随伴微小生物が大量に侵入して、生態系や人の健康に対して思いもよらない影響を及ぼすことが懸念される。

本研究課題では、これまで政策的にも関心を集めることが少なかった潜在的な随伴侵入生物の侵入実態および生態学的特性を明らかにするとともに、在来生態系および人間生活に対する影響評価を行う。さらに侵入ルートおよび分布拡大プロセスについて、生物学的側面のみならず、社会・経済学的側面からの解明および予測を図り、検疫・防除手法の具体的検討を行う。また、韓国・中国・台湾などの研究機関とも連携を図り、アジア地域における随伴侵入生物の防除ネットワークの構築を目指す。

これにより、今後、経済の国際化や地球温暖化など地球規模の環境変化にともない、さらに増大していくと考えられる非意図的な随伴侵入生物に対するリスク評価の重要なケーススタディとなり、国内法の整備、検疫システムの強化、および国際共同ネットワーク構築を推進するための科学的根拠を提供することが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

非意図的な随伴侵入生物の侵入ルートの解明および防除対策（(独)国立環境研究所）

輸入資材における随伴侵入生物の生態リスク評価（(独)森林総合研究所）

外来の淡水無脊椎動物の生態リスク評価（三重大学）

輸入動物に随伴する病原体の生態リスク評価（麻布大学）

輸入動物に随伴するマダニ類の生態リスク評価（国立感染症研究所）



6. 研究のイメージ

